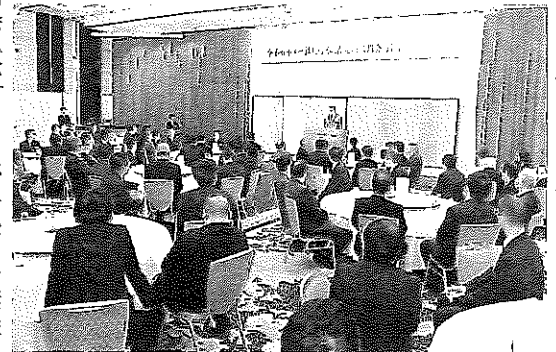


令和6年2月2日 西日本建設新聞

県電設協が新年賀詞交歓会 問題意識の統一を



熊本県電設業協会（松尾修一会長）は1月25日、熊本ホテルキャッスルで2024年新年賀詞交歓会を開催した。年頭の挨拶に立った松尾会長は、4月の適用が迫った時間外労働規制など働き方改革への取り組みを話し、「業界として問題意識を統一することが重要。今

また、今後の協会運営において「『入職者の確保と次世代への技術継承』、『DX・ICT活用による生産性向上』、『働き方改革』の三つに

大きな変革のチャンスでもある」と声をあげた。働き方改革について松尾会長は「前工程を担う業種と、我々電気設備などの後工程の業種は、工期の考え方に大きな差がある。最終ランナーと言われる設備工事業者がきちんと仕事ができる環境づくりを現場一体でつくらなければならぬ」と訴えた。

ついて好事例などの情報提供を行っていく」と考えを示し、発展とサステナブルな業界の実現へ会員に協力を呼び掛けた。来賓から熊本県営繕課の後藤英夫審議員と熊本市設備課の荒木新吾課長が挨拶し、後藤審議員は「（熊本経済の）良き流れを加速させ、50年後、100年後の更なる発展に向けた取り組みを進めるためには、電設業界の力が不可欠」と蒲島郁夫知事のメッセージを伝えた。賀詞交歓会には会員や来賓ら97人が出席し、新年の挨拶を交わした。